

探検団スケジュール

四年 西山翔平 田辺侑大

6月18日(日) 13時東京メトロ有楽町線豊洲駅7番出入口(北口)あたりに集合
※ 東京臨海新交通臨海線(ゆりかもめ) 豊洲駅の前

参加者: 西山 田辺 佐々木 田野 高坂 倉持 佐藤 長谷川 後藤先生

1. 豊洲駅からかつて豊洲にあった造船所の跡まで歩きます。駅からの所要時間は徒歩で7分程度です。

ここは石川島播磨重工造船所と呼ばれていたところで米国ペリー艦隊が来航した1853年(嘉永6年)幕府の命を受けた水戸藩がこの地に石川島造船所を創設した。同造船所は洋式帆装軍艦「旭日丸」をはじめ、日本人によって設計、建造された最初の蒸気軍艦「千代田形」など数多の艦船を次々と建造、造船技術を通じてわが国産業の近代化に大きく貢献した。

明治維新後の1876年(明治9年)平野 富二により わが国初の民営洋式造船所として再スタートし、その後1889年(明治22年)には 渋沢 栄一などの協力により会社組織となり、有限責任石川島造船所、株式会社東京石川島造船所の社名の下、明治から大正・昭和にかけて、多くの軍艦・商船を世に送り出してきた。この地での造船事業は1939年(昭和14年)造船部門の東京深川区豊洲への移設によって幕を閉じた。

その後、石川島重工業株式会社、石川島播磨重工業株式会社と社名が変更される中で、当地は日本屈指の重機械類の専門工場として活躍してきたが、1979年(昭和54年)の工場大移転により、その長い歴史を終えた。<http://hamadayori.com/hass-col/tech/Zosenjo.htm> から引用

今の豊洲は昔のような職人の街ではなくなっています。昔の名残を見つけるのも面白いし、逆にどういったところが変わったか観察する。

2. お台場海浜公園

豊洲から歩いて一時間くらいでお台場海浜公園に行きます。そこでは、ペリー来航に対抗するために江戸幕府が6つの砲台を築造した中の、現在に至る過程で第三砲台と第六砲台が残され、第三台場は公園に、第六台場は自然豊かで学術的にも貴重な史跡として海上に保全されているものが見られます。過去と現在が共存するこの場所に行き、普段は感じる事が出来ない江戸時代から現代への移り変わりについて考えたいと思います。

http://www.tptc.co.jp/park/01_01/history←ちなみに歴史についてはこちらに詳しく載っているので確認してください。

その公園には、東京オリンピックでトライアスロンと水泳の開催場所になっているエリアがすぐ近くにあるので、オリンピック前と後はどのような変化があるのか、そこにどれく

らいの人に影響を与えるのかも考えてみたいです。

3. 昭和島

お台場海浜公園からゆりかもめで有明に行き、有明から国際展示場（徒歩6分）で国際展示場から天王洲アイル（りんかい線）に行き、天王洲アイルから昭和島にモノレールで移動します。（電車での移動時間は45分です）

昭和島では主に、羽田鉄工団地と、森ヶ崎再生センターの二カ所を見たいと思います。

羽田鉄工団地（駅から徒歩8分）は、昭和42年に東京都内の鉄工業者46社を中心に設立され、東京都港湾局の埋め立てした昭和島の工業用地を取得、東京都の第一号公害防止工場団地として認可を得て、昭和43～45年に組合員各社が移転して操業を開始しました。高度化・集団化を図ることで、騒音・振動等の公害問題を解決した画期的な成功事例として各界から高い評価を得ています。

そして羽田鉄工団地のすぐ近くにある森ヶ崎再生センターは、東西二つの施設からなっており、日本最大の水再生センターです。処理区域は、大田区の全域、品川、目黒、世田谷の大部分、渋谷、杉並区の一部で、面積は14,675ヘクタールの下水処理場です。ここも運転開始が昭和41年の4月なので歴史ある場所です。埋め立て地域がどのような歴史をたどってきたのか。どのような人がこの地域にいるのか見てみたいと思います。

解散は歩くスピードなどで変わりますが、17時半を予定しています。

埋立地周辺の再開発を主としたため、歩く時間・距離ともに長くなりますので当日は歩きやすい靴をお願いします。